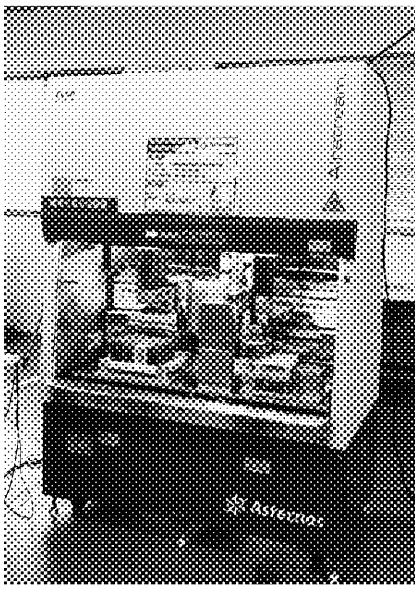


医療自動化技術で成長

微生物検体採取吐出 マスク製造装置拡充

アステクノス、自社製品強化

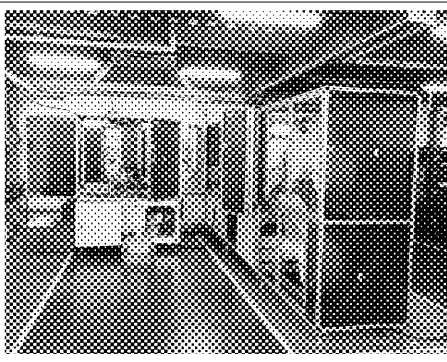
【静岡】アステクノス（静岡市駿河区、有我敦司社長）は、医療・健康分野向けの自社ブランド製品の開発を強化する。ウイルス、菌など微生物検体の自動分取（採取）・分注（吐出）装置を完成し、受注を始めた。マスク製造装置のラインアップも拡充した。コロナ禍の長期化を見据え、同分野を成長市場として期待。主力のFA（工場自動化）システムで蓄えた自動化技術をベースに製法開発を加速する。



自社ブランド製品の開発は2020年に立ち上げた新規事業開発部が担う。20年にPrius式マスク製造装置、21年にPCR検査

前工程の自動化装置を投入。医療・健康分野を主力の自動車関連に次ぐ事業の柱に育てる。微生物検体の自動分取・分注装置は、PCR検査前工程の自動化装置を機能拡張した。唾液の濃度に応じて物性を検出するなど独自のノウハウを取り入れ、分注精度を5倍以上に高めた。複数の検体を同時に検査し、陽性の場合個別に検査するプール検体方式に対応。ウイルス、菌など微生物検体の自動分取・分注装置の受注を本格化した。

前処理ができる。検査、搬送、希釈、液調整など各種ユニットのカスタムに対応できることを特徴に食品・化学業界などに売り込む。価格は2000万円（消費税抜き）。年間10台の販売を目指す。マスク製造装置では



ラインアップ拡充として投入したダイヤモンド型不織布マスク製造装置

2機種目となるダイヤモンド型不織布マスク製造装置を完成し、不織布メーカーなどに提案を始めた。全自動で稼働し、同社によると不良率は5%以下という。生産枚数が毎分30枚で価格6000万円（同）から。販売目標は年間10台。アステクノスは搬送、組み立て、検査向けFAシステムを手がける。自動車向けが76%を占め、21年3月期の売上高は約40億円。医療・健康分野向けでは2製品・4機種を投入している。

2機種目となるダイヤモンド型不織布マスク製造装置を完成し、不織布メーカーなどに提案を始めた。全自動で稼働し、同社によると不良率は5%以下という。生産枚数が毎分30枚で価格6000万円（同）から。販売目標は年間10台。アステクノスは搬送、組み立て、検査向けFAシステムを手がける。自動車向けが76%を占め、21年3月期の売上高は約40億円。医療・健康分野向けでは2製品・4機種を投入している。